

2015年9月25日

各位

株式会社 埼玉りそな銀行

鶴ヶ島市の伝統行事「脚折雨乞」を活用した地域活性化の取組みについて

りそなグループの埼玉りそな銀行(社長 池田 一義)は鶴ヶ島市の地域活性化を目的に、地元伝統行事の観光資源化の取組みを開始いたします。この取組みは、当社が本日鶴ヶ島市と締結した「鶴ヶ島市と株式会社埼玉りそな銀行との連携に関する包括協定」に基づくものです。

「脚折雨乞^{※1}」は鶴ヶ島市に伝わる伝統行事で、1964年には一度途絶えてしまいましたが、地元住民の熱い思いから1976年に復活し、現在4年に1度実施されているものです。当社は鶴ヶ島市や地域住民の皆さまと連携し、「脚折雨乞」を地元が誇れる観光資源へと進化させ、観光振興による地域活性化を図るとともに、市のイメージアップによる定住人口の拡大促進にもつなげてまいります。

▶ りそな総合研究所のノウハウを活用します

鶴ヶ島市とりそな総合研究所がコンサルティング契約を締結し、「REENALプロジェクト^{※2}」を活用します。意見交換会により地域住民の皆さま、地元企業、鶴ヶ島市それぞれの課題や強みを明確化し、相互補完やマッチングを行うことで「脚折雨乞」の魅力を高めていきます。

▶ 地域住民参加型の取組みです

10月から地域住民の皆さまとの協働検討会を実施いたします。地域住民の皆さまと一体となって具体的な企画を検討し、「雨乞いのまちつるがしま」を目指し、地域活性化の基本構想を策定します。



1947年当時の開催の様子



前回(2012年8月)開催の様子

※1 「脚折雨乞(すねおりあまごい)」は江戸時代から続く、鶴ヶ島市に伝わる雨乞い行事です。4年に1度巨大な蛇体を作って練り歩き、雷電池(かんだちがいけ)へ導くことで降雨を祈願します。昭和51年に市指定無形文化財、平成17年に国の選択無形民俗文化財に指定されています。次回は2016年8月7日(日)に開催される予定です。

※2 「REENAL(りーなる)」は「RESONA」と地域を表す「REGIONAL」を組み合わせた造語です。「REENALプロジェクト」はりそなのネットワークを活用しながら、地域などとコラボレーション企画を展開し、新しいマーケットを創造することを目的としたプロジェクトです。これまで、商店街オリジナルの定期預金をきっかけとした商店街の活性化や、ラジオ放送局とのコラボレーションによるオリジナルキャッシュカードの発行を通じた若手アーティストの支援など、地域・企業における活性化の取組みは500を超え、各所で反響を呼んでいます。

以上